

幼児教育・保育の質的向上における 「遊び」についての考察

浅木 尚実

(2015年10月15日受理)

要 約

OECDの提言により、国際的に幼児教育の質的向上が注目を浴びている。我が国でも「子ども・子育て関連三法」が施行され(2015年4月)、今後益々子育てを含む幼児教育の質的向上が求められる時代に入った。幼児期の「遊び」は、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」でも保育内容の中心的課題となっている。本論では、北欧スウェーデンの幼児教育を取り上げ、幼児教育・保育における「遊び」と質的向上との関連を考察した。

キーワード 幼児教育、保育、質的向上、遊び、自然教育

はじめに

幼児教育・保育の質への関心が国際的に注目されている。OECD報告書「Starting Strong III」では、保育の質次第によって、保育(ECEC=Early Childhood Education and Care)への幅広い恩恵をもたらすことが明確に示されている(OECD2012:9)。林悠子は、「現在保育の『質』は国際的関心であり、『質』向上への努力なくして、『保育による幅広い利益』はもたらされないことが共通課題となっている。」と述べているⁱ。また、保育学会大会企画シンポジウムⁱⁱでは、「遊び」が子どもの生活や育ちを保障する最も基本的な課題の一つになるとして、その質の在り方を学会として取り上げ議論し、継続的な調査の必要性を訴えている。本稿では、幼児教育・保育の質的向上について、「遊び」を取り上げ、質的保育の上位に位置する北欧スウェーデンの幼児教育の事例から考察を行った。

1

I. 幼児教育・保育の質とは

OECDと幼児教育・保育の質的向上

幼児教育・保育の質的向上に関する議論は、国際的な視座で議論され周知されてきた

(OECD, 2001, 2006ⁱⁱⁱ)。

OECD (先進工業国でつくる経済協力機構 29 カ国加盟) は、保育制度に関する調査報告書を2001年に発刊した。このタイトルは「力強く人生を歩み始めよう！」である。報告書では、保育の目的に関して大局的に二つの方向を示している。一つは、「こどもたちがグローバル経済の中で労働力としてやっていくためには、学習のための準備、就学のための準備を幼児期にしておかなくてはならない」という準備期としての考え方である。二つ目は、「子ども時代を未来への準備期として重要とみるのではなく、『それ自体が重要な意味を持つ人生の最初の段階』とする幼児期自体に価値があるという考え方である^{iv}。大宮勇雄は『保育の質を高める』の中で、ノルウェー政府文書の一節も紹介している。

人生の一つの段階としての子ども時代は、それ自体がきわめて高い価値をもつ時代であり、子どもにとっての自由な時間、独自の文化そして遊びは決定的に重要なものである。… (中略) …子どもたちは、自分なりの考えや自分自身の関心に基づいて生活できる、そういう意味でありのままの子どもでいられるよう求めていることを、つねに念頭において、保育施設の管理運営を行う必要がある^v。(下線は筆者)

しかし、2012年のStarting Strong IIIの調査報告があった段階では、日本の幼児教育の「質」についての言及は、条件や労働環境としての「質」に関する議論が主であった。大宮勇雄は、保育の質を3つの側面^{vi}で捉えているが、プロセスの質(保育実践そのもの。子どもと保育者の相互作用。環境構成等)は、その中でも環境教育に直結しており、幼児教育・保育内容の質を左右する根幹をなすものである。日本の政策として初めて「プロセスの質」に関する言及があったのは、「子ども・子育て支援法」(平成24年8月成立)であった。

日本の保育政策と保育観：「子ども・子育て新制度」と幼児教育・保育の質

日本では、「子ども・子育て支援法」を始めとする子ども・子育て関連三法^{vii}が、平成27年4月に施行された。これに基づいた新制度「子ども・子育て新制度」は、国家レベルで「幼児教育、保育、子育て支援」を総合的に推進しようとする制度であり、消費税増税分(0.7兆円)が予算として組み込まれている。「子育て」に関する公的資金が、初めて社会保障制度として「医療・介護・年金」と並んで位置づけられることになる。新制度目標は以下3点である。

- ① 現在の「認定こども園制度」を改善し、認定こども園を普及していくこと
- ② 保育を量的に拡大し、待機児童を解消するとともに、幼児教育や保育の質をもっと高めていくこと
- ③ 地域の子育て支援をさらに充実させること。

この目標の二番目には、待機児童解消とともに、「幼児教育・保育の質的向上」を唱っている。しかし、日本の幼児教育、保育政策の動向を見ると、前述したOECDの調査報告書に

における保育の二つの目的のうち、「子どもたちがグローバル経済の中で労働力としてやっていくためには、学習のための準備、就学のための準備を幼児期にしておかなくてはならない」という「準備期としての幼児期」を推進していく方向にあるのではないと思われる。その理由として、政府は「幼稚園から義務教育」を念頭に、幼児教育の無償化や幼稚園教育要領の見直しを検討している。2005年1月に発表された中央教育審議会答申では「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育のあり方」として、「幼児の生活の連続性及び発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実」を挙げており、OECDが批判的に紹介していた「子ども時代を未来の準備期間としてみる子ども観」を提唱している。従来の幼稚園教育要領^{viii}と保育所保育指針^{ix}が「子どもの生活」や「子どもの遊び」を重視していた流れを変え、「教育」を一段高いところに位置づけているのが認定こども園の認定基準である。

では、従来型の保育で重視された遊びはどのように変化し、どのような質を確保しているのだろうか。

II. 遊び

現代の子どもの遊び環境

ホイジンガが人間の本質的機能を〈ホモ・ルーデンス＝遊戯人〉^xと位置づけるまでもなく、乳幼児期を取り巻く環境において、遊びは重要である。過去の歴史においても、よりよい遊び環境の中で健全な身体や精神を成長させていくことが模索されてきた。

しかし、現代に入り、日本では健全な遊びを確保しにくい要因がいくつか指摘できる。その一つ目は、高度成長期の環境破壊による遊び場の減少である。両親の就労形態の変化や犯罪の増加等によって子どもの屋外遊びが減少し、室内遊びの時間が増加している。それに伴い、自然の中で心身を鍛える遊びより、室内で玩具を使って遊ぶ時間が増加している。玩具の範疇も、かつての子ども専用のものより、テレビ視聴やゲーム使用の低年齢化が指摘されている。『保育白書2007』では、1、2才児の遊びの第一位に「テレビの視聴」^{xi}があがっているほか、3歳児のテレビ視聴時間は、3時間以上が62%にのぼるほど、増加していることも問題視されている^{xii}。第二に、少子化に伴い、親の過保護、早期教育が過熱し、幼児の遊び時間を奪っている一方で、高価な玩具を安易に与えている傾向も見られる。また、テレビから流れるコマーシャルは消費欲望を煽り、アニメのキャラクターを使った巧みな語り口は、玩具の選択力が判断力の未熟な幼い子どもをターゲットに、四六時中購買欲を煽りたてている。

遊びの性質が、室内遊びに転じたことによって、多くの劇的な変化をもたらしている。ここで注目しなければならないのは、遊びの主体が子どもではなくなっていることである。外遊びでは、子どもは自らの体や五感を使いながら、創意工夫を重ねて想像力や思考力を発達させる効果があった。しかし、電子機器玩具に関していえば、ますますハイビジョン化する高性能テレビは、良質の音声と画像で子どもに強烈な刺激を与える媒体であり、目や耳からの瞬間的な過剰な情報は、微妙な変化に対する五感の感覚を鈍化させ、思考力の停止を促すことが危惧

される。一方的で受動的な映像の長時間の受信は、子どもの五感や想像力の発達を促進させるどころか阻害する恐れが強い。ここに遊び環境の室内化による悪影響の一端が指摘できる。

こうした現代的な遊びの傾向と幼児期の遊びの「質」を考察するにあたり、過去の遊びをふり返ってみたい。次にヨーロッパの遊びを歴史的に概観していくこととする。

遊びの歴史的考察

モリー・ハリソンは、『こどもの歴史』^{xiii}の中で、中世の遊びを「大人も子どもも単純なことに大きな喜びを見いだして現代よりももっと生き生きした毎日を過ごしていた」と述べている。田舎に住み、毎日の生活がキャンプのようで、自分でゲームを考え楽しんでた。「夏の間、祝祭日には若者は跳躍、ダンス、射撃、レスリング、石投げ、盾の使い方のけいこをし、乙女はタンバリンに合わせて軽やかにステップを踏み日が暮れるまで踊り続ける。^{xiv}」球技・ボール遊びにきちんとしたルールはないが、ホッケー、テニス、ラウンダース（野球と類似）、クリケット、フットボール、球ころがしのようなゲームが行なわれていた。今より寒い場所が多く、川、沼、水浸しの畑は厚い氷に覆われたため、そり遊び（トボガン）が盛んで、スケートは、動物の骨で作った靴をはいて楽しまれていた。

16、7世紀に入っても、相変わらず外遊びが多く、紳士階級の間では、格闘技、棒投げ、馬跳び、輪回し、フットボール、野外ボーリング、狩猟、鷹狩り、ペット、馬攻め、牛攻め、闘鶏をする一方で、室内では、ゲーム（チェス、チェッカー、バックギャモン）をし、ゆり木馬で遊ぶほか、魔女、妖精、小人、巨人が登場する物語を聞いて楽しむようになった。

18世紀の遊びにおいても、玩具、映画、テレビ、ラジオのない時代であり、楽しみは自分で作り出していた。田舎も都会でも自然豊富で、スケート、雪合戦、凧揚げ、魚釣り、木登り、犬の散歩、ピクニックが盛んであった。室内遊びでは、人形遊びが職人の作る玩具として登場し、女の子には、高価な人形の家、陶工の食事セット、男の子には、ブリキの兵隊、騎馬、歩兵、銃、剣等が、主に富裕層で遊ばれていた。

19世紀の遊びとしては、大家族中心で、遊び友達は豊富な上に、自分で遊びを考えだすことが主流であった。人形遊びや物語の朗読はますます盛んになり、ディケンズ、サッカーが隔週発行の雑誌、月刊誌に連載しだしたのもこの頃である^{xv}。

中世の子どもの遊びを観察して後世にも伝えたのは、ピーテル・ブリューゲル^{xvi}の「子供の遊戯」^{xvii}（図1）であるが、いくつかの問題点はあるものの、こうした資料は、計り知れないほど有益である。森洋子は、ここに描かれた250人の子どもの91種類の遊びを分析している^{xviii}。ここに登場する多くの玩具やゲームは、こどもや青年、大人にとって日常の普通のことであったと述べている。

外遊びが中心で、室内ではごく限られた玩具しか作られなかった時代においては、大人は子どもの教育のために、量より質を重んじていた傾向が見られる。歴史的な遊びを辿ってみると、外遊びにおいては、自然のものを使って、子どもは自分たちの体験をもとに創意工夫する習慣があった。また、玩具に関しても手作りで高価であったという点から、オリジナリティや想像力育成に富んだ創意工夫がなされていた。

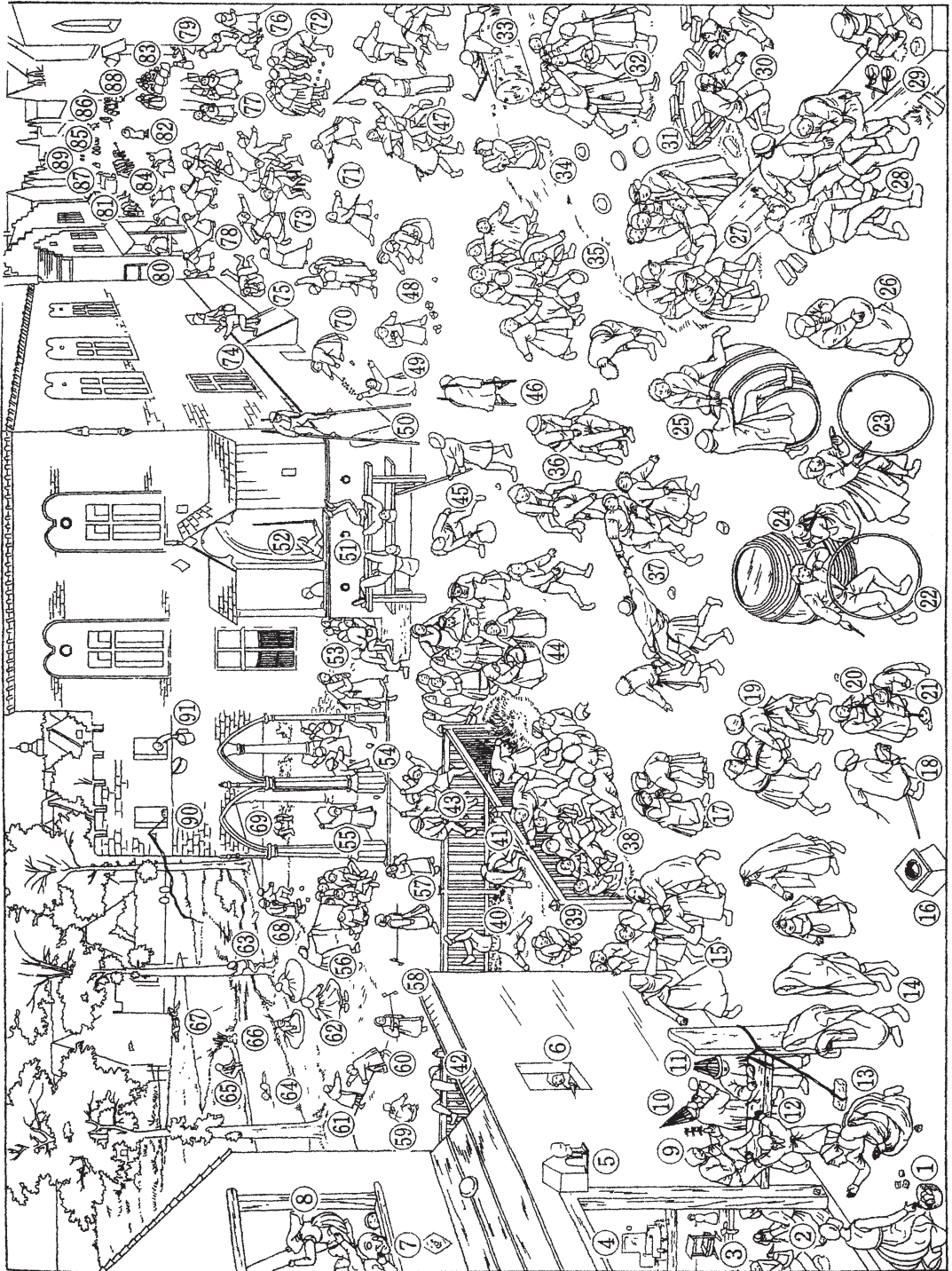


図1：プリユージェル「子供の遊戯」トレース

しかし、20世紀後半からの先進諸国では、高度成長、技術革新が生み出したIT化を推し進められ、情報のネットワークは世界中に張り巡らされている。アンソニー・キデンズ^{xi}によれば、地球上どこへ行っても瞬時に同じ情報が手に入り、同じ商品が流通するグローバルゼーションの時代に入ったのである。

こうした傾向は、日本にも強い影響を与え、かつての自然での遊びが激減していることは前述した通りである。歴史的に外遊びが盛んであったことを踏まえて、スウェーデンでの二つの保育園での比較調査より、自然教育と「遊びの質」との関連を見ていくこととする。

Ⅲ. スウェーデンの幼児教育と遊び

パトリック・グラーンの二園比較調査

秋田喜代美は、「保育の質研究の展望と課題」^{xx}の中で、OECDが、国レベルでの政策としての2つの方略が、よりよい保育の質への改善として重要であることを指摘している。」と述べ、その中で、各地域や国等での自主的な参加による質の改善の例として、イタリアのレッジョエミア市におけるドキュメンテーション（保育記録）過程と北欧諸国による省察的な実践プロジェクトを挙げている。本論では、その中でも福祉先進国といわれているスウェーデンの保育園を取り上げることとした。

パトリック・グラーン^{xxi}は、二つの保育環境の違う保育園を比較調査し、2005年に発表した。一つは、スウェーデンの自然を生かした野外保育を特徴とするスタータレンガン保育園^{xxii}であり、もう一つは、典型的な都会のレーキャッテン保育園^{xxiii}である。二つの保育園における比較では、「野外で遊ぶことに重点が置かれているか」また、「多様な遊びが可能であるか」を焦点に調査が行われた。前者は遊びに制限がなく、遊び方も自由に創造できる一方で、後者は、綺麗な園庭があるものの、決められた時間内に遊ぶことが許され、遊具の種類も限定されたものとなっている。この研究調査の結果でグラーンは、決定的な相違が見られたと述べている。スタータレンガン保育園の遊びの内容の方が、創造性の豊かな遊びが展開されていると指摘している。その理由の一つに、遊び環境の違いとして、遊具がすべて自然のものであり、後片付けの必要がなく遊びを翌日も継続して行うことが可能となり、より深い遊びに発展できる点を強調している。

こうした遊びの創造性のみならず、グラーンは自然の中で遊びことにより、病欠が減少し、健康になることや、運動神経の発達や集中力が伸びることも指摘している（表1^{xxiv}）

6

森のムッレ教室

グラーンの調査研究により、自然の中での遊びが重要であることが理解されたが、同じスウェーデンには、「森のムッレ教室^{xxv}」という野外生活推進協会が開発された環境プログラムを行っている団体がある。スウェーデンでは、全土に広がり現在200万人がこのプログラムの教育を受けている^{xxvi}。最近では、北欧各国だけでなく、ヨーロッパ、中東、日本でも導入する幼稚園、保育園が増加している。日本には1990年に導入され、「森のムッレ教室」

表1 集中力テストの結果

		レーキャッテン園	スタータレンガン園
1	気が散りやすい	17.3	9.3
2	話を聞かない	18	12.1
3	音に注意しない	6.4	2.2
4	指示通りに作業できない	12.4	2.8
5	先生が勧告を繰り返す	60.7	7.3
6	集中するのが難しい	9.3	2.1
7	持ち物の整頓ができる	4.4	5.2
8	指図に従わない	13.1	5.7
9	忘れっぽい	2.7	3.8
10	活動をよく変える	4	6.1
11	注意を集中する間が短い	4.2	1.3
12	自立心がない	2.6	2.3
13	慌てていい加減にものをつくる	3.5	3.3
14	先生が子どもの注意をひくために目を見て話をする必要がある	34.2	10.7
15	手順を忘れる	0.3	1
16	先生に注意されても聞かない	13.8	8.6
17	自分の番まで待てない	5	2.8
18	他の子どもがもっているものを取り上げる	8.2	4.6
19	他の子どもの話のじゃまをする	19.6	9.2
20	衝動的になる	16.5	7
21	すぐにイライラする	36	5.8
22	他の子どもを押しやる	10.4	5.9
23	正しい順番にしない	3.7	1.5
24	他の子どものじゃまをする	19.6	4.6
25	責任をとらない	13.4	3.3
26	事故を起こす	2.3	0.6
27	落ち着きがない	77.3	6.8

*太字の部分はとくに差が大きいもの

出典：Patrik Grahn, Fredrika Martensson, Bodil Lindblad, Paula Nilsson Anna Ekman “Ute Pa Dagis”
Stad & Land nr 145：1997

の開催資格を持つリーダーが指導している。

本論で、「森のムッレ教室」を取り上げる理由は、大変質の高い遊びを行っていると考えたからであると同時に、前述したスタータレンガン保育園が、ムッレ教育を取入れていた為である。ここでのプログラムは、季節にかかわらず、野外で活動し、五感をフルに使って遊ぶことを目的としており、森の中で楽しく自然の循環や自然との付き合い方を学んでいく。

森下と中山^{xxvii}は、日本で実践されている「森のムッレ教室」を調査し、プログラムの効果を分析した。その結果、「ムッレ教室」終了後の参加幼児の変化として、「自然がますます好きになった・教室のことを思い出す」「3つの約束^{xxviii}を実行している・循環の話をする」「社交性が出てきた」^{xxix}と述べている。こうした効果は環境教育としての取り組みへの評価であるが、遊びの中で繰り返すことの重要性にも言及している。

まとめ

遊びの質という非常に抽象的かつ尺度付けの困難なテーマに取り組んできた。質の高い遊び環境を構成するとはどういうことであろうか。北欧の調査研究をベースに、自然の中で遊ぶことにより、子どもは主体的に行動し、成長発達に欠かせない能力も身につけていくことが説明されてきた。幼児教育・保育の質的向上に言及する時、遊びが大きな力を発揮しているのである。

第64回保育学会大会では、大会課題研究委員会^{xxx}による「質の高い遊びとは何か？ ―遊びの質を規定するための条件」と題するシンポジウムが行われた。そこでは、質の高い遊びについて「質の高い遊び」^{xxxi}（表2）と「質の高くない遊び」^{xxxii}（表3）の категорияが示された。このカテゴリーに関する議論は、今後様々に展開していくことが望まれる。遊びの質への評価基準を設定することは非常に困難ではあるが、遊びの質向上に役立つ基準作りはある程度必要であろう。

本論では、試験的に外遊びの環境設定や子どもの満足度等への取り組みについて、以下の10事項について考慮することを提案したい。

- ① どのような場や空間にするか
- ② どのような遊具や素材に出合うか
- ③ 取り組める時間はどれだけあるか
- ④ 主体的に活動できているか
- ⑤ 充実感を生みだされているか
- ⑥ 自分の力を発揮し、達成感を持っているか
- ⑦ 友だちと十分に過ごせているか
- ⑧ 自然と十分ふれあっているか
- ⑨ 動物、虫、植物に目を向け、木、土、水に親しんでいるか
- ⑩ 自然、生命の大切さを学んでいるか

表2 「質の高い遊び」のカテゴリ

カテゴリ名	カテゴリに含まれるキーワード
1 ルール	ルール。
2 安心安全居場所健康	安心して遊びこめる空間と時間の保障、安心感があり自由である。健康、安全で、安心できる環境（ルールが有ること）、居場所感。
3 見通し	目的や見通しをもつ、子どもが、かなえたい思い（夢）をいだいて遊びにとりくんでいる。
4 協働協同協力	友達とのつながり、刺激、集団、つながり。協同、話しあい、やりとり、協同。友だちとの協同性（相互の役割への関心）。仲間との協力（協力）、一緒に遊ぶ友達との協同、対話（子ども同士やりとりが活発）、友達に支え、支えられる、人（子）とのつながり、仲間関係。やりとりの中でのすりあわせ。集団性、友だち、仲間との集団関係が強まる（協同）、異年齢交流、協同性、人とのかわり、個と集団の充実の両立、友達（の発想）、協同的な学び（遊び）、協同性、協同性、協働、活動や気持ちのつながり、協力、豊かなコミュニケーション。
5 集中熱中没頭	集中できる遊び、集中、充実度、夢中になる、集中、集中力、熱中（できる）。思いからくる集中力。熱中、集中、夢中になる。没頭、持続する、集中しているかどうか、集中、集中（夢中）、主体性。集中、集中力、夢中、自分の持っている体や心を最大限に力を発揮している。集中（熱中）、集中度が高い。集中と解放（笑い）の両方がある。夢中になっている。（集中の）接続、没頭している。
6 共有共感イメージの共有	創造・想像性。想像性が豊か。想像力、イメージをする、共有、イメージ、創造、共有、子どもの思い、アイデアから始まる、子どもの創造性、イメージ活動、発想。創造性、創造性、共感性。共感。他者との共有、夢中度（高い）、共有・共感、子どもからのアイデアが出てくるか、発想（考えたり工夫したりしている）、つなぐ（連続・継続、他児とつなぐなど）、イメージの深化、子どものイメージの持続性があること、イメージの共有。
7 直接体験生の体験	「生」の体験。森の「コミュニケーション」能力。
8 内容に深まりがある遊び	内容に深まりがある遊び。
9 達成感充実感	満足している子どもの表情。充足感・達成感、達成感。達成感からくる歓喜。
10 葛藤	葛藤。（子ども自身の）。
11 偶発性柔軟性多様性	フレキシビリティ、柔軟性。計画にない幼児の活動を育てる実践、偶発性、多様、柔軟性。
12 遊びの展開発展連続	遊びの発展。発展性のある遊び、展開、遊びの連続性、発展、発展、連続性。発展する、展開。遊びが伝わる、発展（がある）、子どもの遊びの継続、継続性。発展、影響力。
13 学び	（遊びの中の）学び。
14 経験の積み重ね	経験の積み重ね。
15 保護者	保護者の協力と理解。
16 試行錯誤創意工夫思考	試行錯誤、試行錯誤、創意工夫。試行錯誤。考える、考察力、試行錯誤がある。（いろいろな試みや発見）、工夫、思考、工夫する、思考、考え合う（発展性）、工夫。工夫、認識力。
17 探求追求	なんで……（繰り返しを楽しむ）探求する気持ちが育っている。探究心。できないところを質問する。
18 発達	発達。
19 好奇心わくわく感喜び	子どもの表情、身体が生きている、楽しむ、楽しさの継続、子どもが楽しんで園生活を送っていること。（楽しい生活）、喜び、ワクワク感、好奇心。喜び、子ども自身が楽しんでいること（楽しさ）、リズム（ノリ）。

20 自主自発自律	(子どもの) 主体性。主体的な活動(主体的)、自主性。主体性・自発性、主体性・自発性、自発性(自分たちで遊びを進めている)、主体的な活動、自主性、自主性、意欲的(能動的)、子ども主体的であること、次～したい! 意欲がある。主体的、自主的、子どもが意欲的である、自分で選ぶ、自発性、自律性、再現する、自主・自発性、最後までする、(子どもの) 自主性。子ども自分から進んで活動すること。(自主性)、主体性、主体性、自分(たち)で作り出す、主体性の発揮、(子どもの) 意欲。志向性。
21 保育者の関わり	保育者の保育内容の専門的知識、現在の子どもの様子を過去や未来と関係づけて保育者が語れること。(保育者の発達理解)、しっかりした細かな配慮・個々への対応をした立案、保護者の協力と理解。保育者、保育者の援助、保育士の遊びに対しての意識の高さ、保育者の意図的・計画的なかわり、(保育者の) 指導力、幼児理解。子どもの心を捉える。保育者のかかわりと広がり。その場面での保育評価は必ずし、幼児から得た事項を一日の(反省) 評価にまとめる。保育者の子ども理解・援助のバランスの良さ。保育者の援助。保育者と子どもの一体感。子どもの興味・関心を見つける、子どもの個性に応じた経験が成立する、子どもの「つぶやき」。
22 十分な時間空間環境	環境構成、自由、自然、環境(物的、人的)の保障、モノとの関わりを深化、好奇心をかき立てる環境、環境、環境。考え抜かれた環境。試行錯誤が許される時間と場の確保(自由感)、素材(を生かす)、遊びを満足させる時間がある、自由感と充実感。環境構成、自由、環境、じっくり取り組める時間・空間、豊かな教材、子どもが満足できるまで遊べる時間を与えること、遊具・道具、遊びの発展に応じた環境構成をする、適切な物や場、ゆったりとした場と時間。

表3 「質の高くない遊び」のカテゴリ

カテゴリ名	カテゴリに含まれるキーワード
1 協調性の弱さ	人とかかわり、人(子)を困らせる、限られた子が遊ぶ。温かい人間関係につながらない、(子ども同士の) 協調性(共感)性の弱さ、協同性がみられない、孤立、友達関係が深まらない、他者とのコミュニケーションが遊びに反映されない、役割と協力の欠如。
2 大人一方的	やらせ、保護者主動、強制、大人からの制約がある(子どもの不自由感)、指示、教師主導の活動、P:立案時点から幼児サイドに立たない一方的(大人サイド)の保育、教師主導。保育士主導で、子どもの気持ちを受け入れてない、強制的、保育者の指示の優先、すべて保育者主導、志向性(・子どもの志向性が見られない。・保育者による子どもの志向性の無視)、教師主導。教師の意図性が強すぎる保育。命令、ひとりひとりの思いがみとめられない遊び、強制、D:実施中も大人が一方的に進める過程(途中評価なし)、時間も場所も決められている、教えこみ優先、教えこむ。保育士の気持が優先。指示、S:途中もそうであるが事後も幼児の姿を通しての評価なし、遊びに学びがない(保育者にやらされている)、教科的、一斉行動の優先、枠にはめる。
3 受身他律	主体的でない、指示待ち、受動的(受け身)、主体的に遊べない、受動的、自主性がない。他律的。自発的でない。受身(やられる)、受身的。大人への依存強い。他律、保育者も子どもも受け身。主体的なあそびなのか。
4 管理制限	規制が多い、規制が多い、管理的保育、限定。禁止事項の多い、制限、管理的保育。

5 楽しくないおもしろくない	笑顔がない、不満足、おもしろくない、おもしろくない、楽しくない、遊びを楽しんでいない。子どもが生き生きしていない。楽しくない、生き生きとしていない、楽しくない。
6 持続しない継続しない	持続しない(散発的)、あきってしまう、持続時間が短い。継続しない、もうそろそろ遊びが定まっている頃にも遊びが定まらず、あちこち点々としているような遊び方をする、続かない、次々に遊びが変わる、一時的(刹那的)、持続、集中時間が短い。一時的、持続性がない、すぐあきる、途中で止める。投げ出す。ふらつく。
7 不十分な時間空間環境	必要なものがない、新しい素材との出会いがない、子どもが思いやこどわりをこめる要素がない、時間がない、じっくりと遊びこめない環境、つくり出す要素がない、環境が充実していない。適切な環境の取り入れがない、市販遊具、持続性がない。既製品、環境、あそび空間の不足、安定した場がない、落ちつけない場、余裕のない時間と場。
8 集中没頭しない	夢中になれない、集中していない、集中(熱中)できない、夢中になっていない、子どもが楽しんでいない。集中して遊ばない。夢中度(低い)、集中していない、集中度の低さ、ぼっとうしていない。
9 まんねり	展開がない、単調な行為のくり返し。(遊具への依存)、1人(広がらない)、停滞、同じ遊び内容を繰り返す。まんねり。単調、単純な動作の繰り返し、多様性がない、発展性がない、深まらない、遊びの継続・発展。発展性がない。発展しない、発展、停滞、発展性がない。
10 単発突発	短発的。突発的。非連続的な活動、突発的。一人で単発的。衝動的。断片的。単発的。単発的、すぐ壊れる(完成させられない)何度もくり返せない。
11 安直(食い散らかされたよう)な遊び	工夫がない、発散的、乱雑、安易。考えていない、発散的、考えていない。乱雑、工夫がない。遊びを楽しくしようとする工夫がない。
12 とらわれた(ワンパターンな)遊び	固定観念、ステレオタイプ。自分で考えたり、工夫したりするというより、決められたことを単にこなすというような遊び方をする。とらわれ。
13 不自由束縛	自己を十分に発揮していない。自由がない、不自由感、束縛感。不自由(先生の指示で動く)。
14 保育者の放任	放任、保育者の意図が全くないままの環境。放任、保育者の意図がみえない、放任、放任、放任。
15 危険乱暴	危険。乱暴、乱暴な子どもの行動。
16 遊びへの見通しの欠如	自分からやってみようとする意欲や意思が感じられない、意図性、計画性のない遊び、興味がない、目的が持っていない、思い(イメージ)の弱さ、意欲、目的があいまい、イメージがもてない、想像性に欠け、遊びが続かなく。あそびが見つからない。
17 保育者の関わりのまずさ	子ども不在、子どもの興味、関心とのズレた遊び、子どもの思いをくみとらない環境提供。十分な時間の不足。子どもの年齢、発達に合っているのか、保育者の無理解、子ども理解の不十分さ。完成度を求めているか、プロセスが大事。保育者の質の低さ、年齢に合っていない、保育者の子ども理解、教師のねらいの欠如、つまりきや停滞も含めて大切なプロセスをふんでいない、子どものアイデアやイメージが柔軟に取り入れられない。子どもが「なぜ、どうして」と思える環境作りのない保育、保育者の子ども理解・援助(アンバランスの悪さ)、子どもの気持に寄り添ってない。
18 ルール	ルールの欠如。
19 情緒不安定	ばらばら、破壊的、イライラ。
20 保育者の連携のなさ	保育者間の連携のなさ。
21 その他	構造化、欲求充足。打算的、隠れる。

子どもの発達に不可欠な遊びをないがしろにすることは、幼児教育・保育の質の根幹を揺るがすものである。今後、保育士は、子どもが主体となれる遊び環境を工夫し、整備していく責任が問われるであろう。そのためにも常により質の高い遊びとは何かを追求し、実践していく姿勢を忘れてはならない。

(この論文は、平成27年度淑徳大学短期大学部学術研究助成(研究助成費)による研究成果である。)

- i P.1 林悠子、「保育の『質』の多様な理解から見た『質』向上への課題」『福祉教育開発センター紀要 第11号』、佛教大学社会福祉学部、2014.3
- ii p.51 第64回大会課題研究委員会企画シンポジウム報告「質の高い遊びとは何か?—遊びの質を規定するための条件」『『保育学研究』第49巻第3号』日本保育学会、2011
- iii OECD. “Starting Strong : *Early Childhood Education and Care*” 2001
2012年、ノルウェーで開催された「OECD就学米前教育・保育ハイレベル円卓会議」には、34カ国が参加し、「幼児教育・保育の質的向上」に関する議題が議論された。また、我が国の幼保一体化の「子ども子育て新システム」の議論について、2014年9月の保育士養成協議会においても改革の最優先課題として報告された。
- iv P.20 大宮勇雄『保育の質を高める—21正規の保育観・保育条件・専門性』ひとなる書房、2006
- v P.21 前掲書
- vi 3つの側面とは、①プロセスの質(保育実践そのもの。子どもと保育者の相互作用。環境構成)
②条件の質(クラスの子ども数、大人と子どもの比率、保育者の経験年数、学歴、研修等)
③労働環境の質(給与、仕事への満足度、運営への参加、ストレス等)としている。
- vii 「認定こども園法の一部改正」、「子ども・子育て支援法及び認定こども園法の一部改正の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」
- viii 幼稚園指導要領「この章に示すねらいは幼稚園終了までに育つことが期待される心情、意欲、態度などであり、……」=そのことに向かう気持ちや態度を育てたい
- ix 保育所保育指針の目標「子どもは豊かに伸びていく可能性をそのうちに秘めている。そのこどもが、現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培うことが保育の目標である」
- x ホイジンガ・J、『ホモ・ルーデンス—人類文化と遊戯』、高橋英夫訳、中央公論社、1971
- xi 「乳幼児の遊びについての意識と実態」(生後半年～2歳の乳幼児の母親約1,000名対象に調査:花王生活研究所、2005年)によると、「テレビを見る」は1歳児、2歳児ではトップ。(全国保育団体連絡会/保育研究所『保育白書2007年版』宏なる書房、2007)
- 12 xii pp.226-7 土谷みち子、「乳幼児期のビデオ視聴スタイルと子どもの発達」第46回日本小児保健学会講演集1999
- xiii pp.69-76 モリー・ハリソン著『こどもの歴史』、藤森和子訳、法政大学出版部、1996
- xiv P.72 前掲書
- xv 『クリスマス・キャロル』『オリバー・ツイスト』『不思議な国のアリス』『水の子』『エリック・リトル・バイ・リトル』『ナンセンスのうた』『少年少女ペニー雑誌』『ボーイズOWNペーパー』等があげられる。

- xvi ピーテル・ブリューゲル Pieter Bruegel (1525/30-1569) ネーデルランド、16世紀のフランドルの画家。アントウェルペン(アントワープ)の裕福な教養人。時々、農夫のかっこうをし、農民にもぐりこみ生活習慣を知ろうとした。〈代表作〉「子どもの遊戯」1560「バベルの塔」1563「雪中の狩人」1565「農民の踊り」1565などの風俗画で有名。長男(父の模作)次男(静物画)も画家
- xvii 「子どもの遊戯」: 91種類、250人の子どもが遊ぶ姿を画像化。118×161センチ 群集構図俯瞰図
- xviii 『ブリューゲルの「子供の遊戯」』、森洋子、未来社、1989
- xix Anthony Giddens, *The Consequences of Modernity*, 1990
- xx pp.289-305 秋田喜代美、箕輪潤子、高櫻綾子「保育の質研究の展望と課題」『東京大学大学院研究紀要 第47巻』2007
- xxi スウェーデンの環境心理学者
- xxii スタータレンガン保育園
ウェーデン南部のルンド市外にある野外保育園。ムッレ教育を導入している。自然と生かした大きな庭があり、一部は自然の森に近い状態になっている。古い農家の建物を保育舎としている。母屋のほかに、作業小屋、物置小屋、遊び小屋もある。庭では、ニワトリを飼育し、野菜畑や果樹園もある。
- xxiii レーキャッテン保育園: スウェーデンで三番目に大きい都市であるマルメ市内にある近代的なアパートの一階になる保育園。園庭は、ランドスケープを専門とする建築家がデザインしたモダンなもの。砂場、ブランコ、滑り台、自転車等の遊具と保管庫がある。遊び場、植木、芝生、歩道ときちんと整備されている。
- xxiv 集中力のテストは、ADDES (by MaCarney) による。p.77 岡部翠編『幼児のための環境教育—スウェーデンからの贈物 森のムッレ教室』新評論、2007
- xxv 岡部翠編『幼児のための環境教育—スウェーデンからの贈物 森のムッレ教室』新評論、2007
- xxvi これはスウェーデン人4-5人に1人の子どもがムッレ教室に参加していることを表している。
- xxvii 森下英美子・中山智晴「幼児向け環境教育『森のムッレ教室』が参加者に与えた影響」文京学院大学人間学紀要Vol.12、2010.12
- xxviii 3つの約束: ①木や草の根っこをとらない②森の中で大きな声を出さない③森の中に自然に還らないゴミを捨てない
- xxix p.18 前掲書
- xxx 第64回日本保育学会大会企画シンポジウム: 日本保育学会課題研究委員会による企画・調査「質の高い遊びとは何か?—遊びの質を規定するための条件」岡健、阿部和子、中坪史典、山縣文治、渡辺英則、松河秀哉
報告記録: pp.51-60 「保育学研究」第49巻第3号 2011年
- xxxi p.53 「保育学研究」第49巻第3号、2011年
- xxxii p.54 「保育学研究」第49巻第3号、2011年